

# たまいたさ川柳



平成28年

7月号 (No.680)

日川協加盟

## 巻頭言

吐くハツハツ

願法みつる

自転車による登坂というきつい場面がある。或る選手は、ハツ・ハツ・ハツと息を吐くことに意識を集中させるといふ。その反動として自然に吸気が伴うから、所謂吐いて吸ってという呼吸のメカニズムは意識しないのだから。散歩の際に試みて、成る程と実感した。

ふと意識したとき、呼吸とはいかに新鮮な空気を沢山吸い込んで血管内の酸素量を増やすかという命題であると認識していた。それが生理学的にあるいは病理学や心理学的に考察されると、別の次元が見えてくるらしい。呼吸に関する専門的な学問領域も多彩であり、民間でも呼吸法に関して諸説がある。多くの柳人もご存知のことだったかも知れない。運動における呼吸術も、乱れた心を制御する禅の修業もみな腹式呼吸が基本のようだ。それらは吐ききることが基本であるという。

動物の身体は汚物の詰まった皮袋であるという仏教的な不浄観からは、吐く息即ち呼吸は心身の汚物を吐き出すことであり清浄な吸気の対語となる。まさに断捨離の世界観である。貴賤・美醜・貧富への執着を捨てることで、仏心が湧いてくるという事かも知れない。

川柳では出句することを吐くという。身心脱落して大宇宙に向かって吐き出す句の中に、時としてお釈迦様の目に止まる金剛石が在るのかも知れない。

## 日日是好

願法みつる

吸うために思い切り吐く命の火  
肩が凝る喜怒哀楽という重さ

お人好し大きなお世話ばかりする  
陽のような笑顔が癒す四苦八苦

生真面目に生きて見えない三歩先  
博愛を説いて御身は利己主義者

憲法に注ぐ五百の羅漢の目

胃の底にごろりどすと酒の棘

クールビズ貧乏神の一張羅